

～環境学館いずみボランティアスタッフによる「いずみガイド」～

7月のテキゴト

いずみ自然塾 自然を育む輪を広げよう

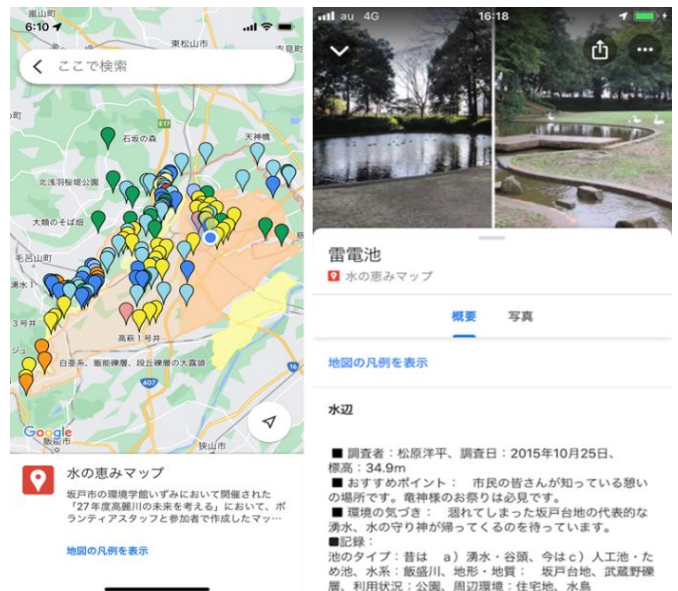
7月24日(日) 10:00～12:00 令和4年度第3回目いずみ自然塾 「水の恵みマップ」

1. 水の恵みマップとは

坂戸に残されている自然を知っていただく一つの方法に水の恵みマップがあります。

これは湧き水、水辺、緑地及び景勝地などをGoogle マップにピンとしてプロットし、そのピンに写真や自然に関わる情報を記載しているものです。

スマホ版の表示は画像の左のとおりです。



2. 湧き水と私たちの生活

坂戸市が位置する坂戸台地、城山などがある毛呂山丘陵は地下水が豊富で湧き水が多いことが特徴です。縄文時代から飯盛川沿いなどに人が住み着き、つい最近まで湧き水を水源とした水田や醤油製造、生活の水場として利用してきました。今でも水道の3割ほどは地下水に頼っています。



城山の棚田



田波目の水場



弓削多醤油の元水源



埋め立てられたまんざいろく水田



黄色が水道等の井戸群



遠不動付近の水場

3. 湧き水のしくみを考える

湧き水は海水が雲、雨となって地下にしみ込んだ地下水が湧き出したものです。地球の水循環によってもたらされます。川の水は海にすべて流れますが、溢れないのはこの循環システムがあるためです。地下にしみ込む量は田んぼ、畑や林では多く、市街地化されると少なくなります。このため、1970～1995年に人口が急増した坂戸市ではそれまで長く変わらなかった循環がおかしくなっています。湧き水が水源となっている高麗川の水も半減していると指摘されます。一方、降った雨はすぐに川に流れ込むので洪水になりやすくなりました。

4. 湧き水を調べる(地下水、生きもの)

滝不動近くの水場で毎月水温を測ると平均気温との関係が2～3か月ずれることが分かりました。つまり、この期間をかけて雨が地下を流れて湧いてきます。そんなに遠くからではなく身近に降った雨が出てくることが分かります。秩父の山から運ばれた砂礫などが扇状地(坂戸台地など)を作りこの地層が地下水を貯めています。坂戸スマートインターチェンジ周辺は田んぼから大きな倉庫に変わりました。粟生田大橋の湧き水はこの影響を明確に示しています。一方、残された湧き水やこれによってできている沢を調べると絶滅危惧種であるホトケドジョウ、サワガニ、メダカ、ムサシ/ジュスカケハゼ及びヒガシシマドジョウなどが細々とまだ生息していることが分かりました。まさに高度成長期前の環境がタイムカプセルのように残っています。

5. 湧き水、今だから考える価値

湧き水の価値を整理すると以下のようになると思います。

- ・冬暖かく、夏冷たい、きれいな水がある場所
- 今でも動植物にとってのオアシスで、私たちにとっても地震時等の緊急水源になる。
- ・農薬、汚水などの環境汚染や農地整備・都市化の影響から逃れた70年前の環境を維持する場所

→貴重な動植物が生き残れている場所、人にとっても安らぎを感じる場所

100年後の子供たちのために、これからの少子高齢化による人口減少、里地里山の衰退、耕作放棄地の急増を踏まえて、都市化によって絶滅危惧種が増えている現状を改善し生物多様性の確保を考えたこれからの私たちのまちづくり、ライフスタイルに見直すことが求められています。湧き水とどう向き合うか今こそしっかりと考える必要があると思います。まずは、湧き水など水の恵みに目を向けることから始めませんか。水の恵みマップへのアクセスをお待ちしています。



アクセス

講師